



火災予防ニュース

第3号 平成30年7月 日 苫小牧市消防本部予防室発行

苫小牧に”ドラゴン”出現！

【北海道エネルギー・産業基盤災害即応部隊運用開始】

平成23年に発生した東日本大震災の教訓から、石油コンビナート・化学プラント等のエネルギー・産業基盤の被災に備え、緊急消防援助隊に新たに特殊災害の対応に特化した部隊である「ドラゴンハイパー・コマンドユニット(エネルギー・産業基盤災害即応部隊)」が創設され、平成30年度末までに、全国12地域に編成される予定です。

この部隊は従来の大型化学消防車、大型高所放水車及び泡原液搬送車に加え、大規模爆発などの消火・延焼防止のための長時間大容量放水による消火活動を行うために新たに開発された、「大型放水砲搭載ホース延長車」及び「大容量送水ポンプ車」(2台併せて「エネルギー・産業基盤災害対応型消防水利システム」といいます。)を中核車両として構成し、総務省から苫小牧市に無償貸与され、去る6月19日に運用を開始しました。



多発する自然災害

7月の初め、西日本各地で猛烈な豪雨により、土砂崩れや大規模な洪水が発生し、過去30年余りで最悪の洪水被害となりました。2013年に特別警報の運用が始まって以降、一つの災害で4都道府県以上に出されたのは初めてで、19日現在死者は220人以上となっています。

万が一、浸水した自宅などに取り残されたら、救助をどう待てばいいのか？

- ・ 2階建てなら2階、3階建てなら3階のように、建物の中で最も高い階で待つ。
- ・ 自宅のそばに山や崖がある場合、反対側の部屋を選ぶ。
- ・ 屋根上では日差しで体力を消耗し落下の恐れもあるので、浸水していない限りは室内で待つ。
- ・ 赤や黄色など明るい色の布をベランダなどに結んでおくと人がいる目印になる。
- ・ 明るい色の布を振る、フライパンや鍋を棒でたたいて音を出すなどして、居場所を知らせる。
- ・ 夜になったら、懐中電灯などの光で場所を知らせるのもよい。
- ・ 暑い季節では、熱中症を防ぐため、日の当たらない場所で窓をあけて風を通す。
- ・ 寒い時期や夜などは、毛布などで体を温める。
- ・ 大声を出し続けると体力を消耗してしまうので、なるべく動かないようにする。

このような行動と体力の温存により、助かる命があります！